

高木復興大臣つばめの杜ぶら下がり会見録
(平成28年6月8日(水) 15:25～15:32 於) 宮城県山元町)

1. 発言要旨

昨日から本日にかけまして、仙台市、名取市、山元町におきまして、水産加工品の商談会会場、農業施設、水産加工団地、仙台空港、仮設住宅、集団移転地区などの視察を行いました。

水産加工団地では最新設備を入れた工場が操業を始めておりまして、水産業の復興を感じることができました。今後は販路の拡大が課題であると思います。また、昨日の水産加工品の商談会では、海外販路の開拓を目指す事業者の取組を視察しました。復興庁としても、「新しい東北」輸出拡大モデル事業で強力に支援していきたいと考えております。

農業につきましても、震災のピンチをまさにチャンスとして、農地の大区画化、6次産業化による高付加価値化、ICT、あるいはロボットなどによる生産性向上の取り組みなど、日本の農業が生き残るためのヒントがここにたくさん芽生えているということを感じました。

仙台を海外との玄関口にするというグローバル・ゲートウェイ構想につきましても、仙台空港は東北6県の基幹インフラでございまして、インバウンドや交流人口拡大のチャンスを活かして、東北を活性化したいと思います。復興庁としても、東北観光アドバイザー会議の提言を具体化させ、東北観光復興対策交付金を活用し、強力に支援していきたいと考えております。

こうした明るい動きの一方で、仮設住宅では、仮設の集約が進められておりまして、新たなコミュニティづくりへの不安、そういった声も伺いました。復興庁としては、仮設住宅の最後の1人が退居されるまで、決して気を緩めずに支援を継続するというところでございますので、ぜひご安心いただきたいと思います。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今大臣からもあったと思うんですけれども、仮設住宅の空き室について、先ほどの住民との意見交換の中で、若い方だと比較的行動半径も広くて、それを逆に捉えると、高齢で独居の方、1人でなかなか身動きがとれないような方は大変だと思いますけれども、そこら辺の支援について、もう少し具体的にお聞かせください。

(答) 被災者支援総合交付金というものの、避難生活が長期化していますし、とりわけそういう御高齢の方もいらっしゃいますし、独居

の方いらっしゃるわけで、そうした方の孤立感だとか、あるいは地域でもコミュニティというのもありますし、生きがいというものをやっぱり持っていただかなければなりませんので、いろんなプログラムを用意させていただいております。ぜひ町のほうを通じて支援をさせていただきたいと思います。

いずれにしても、長期化しておりますので、しっかりと生活していらっしゃる方にこれからも頑張ってもらえるように、そしてまた新しく災害公営住宅等にお移りになられても、また新しいコミュニティを形成していくということもございますので、そうしたようなことにも支援をさせていただければと思います。もちろん公営住宅等におられても同じような方があると思いますので、しっかりと支援をしていきたいと思います。

(問) 仙台空港の件なのですけれども、先ほどの仙台空港でも記者団のほうに「強力に支援していく」ということを表明されましたが、具体的にもう一度、改めてどういった支援を考えていらっしゃるのかお伺いします。

(答) 施設整備なども新たに行いたいと思いますし、これはもちろん民営化でございますから、いろいろ制約もあると思います。ですから、そういった規制をどう緩和していった、柔軟性を持って民営化して、LCCなどもたくさん入ってくるような、そういう空港にしていけば、そんなような支援もできるのではないかなというふうに思います。

(問) それは、復興庁として何か。

(答) 政府として、もちろん一義的には復興庁ということになるんでしょうけれども、復興庁の立場で国交省と連携しながら、そういったようなことを進めていきたいと思っておりますし、社長からもそういった話がありました。

(問) 今年度の予算もう既にいろいろ始まっておりますけれども、7月末には概算要求ができてくると思うんですけれども、何か新しく復興庁として新メニューを概算要求で加えていくという考えはありますか。

(答) 今年度予算もまさに長期化している避難者の方の心のケアということで申し上げたとおり、被災者支援総合交付金というものを計上させていただき、あるいは観光のことについても新しくさせていただきましたが、これからももちろん検討ということになりますけれども、復興が進めば進んだで、新しく課題ということも出てきますので、そうしたものにしっかりと対応できる、そういう予算編成というものをこれから概算要求に向けて取り組んでいきたいと思います。

(問) 空港関連で例えばどういったものを想定されて 있습니까。

(答) 今のところ空港関係で直接復興庁の予算ということになるとどんなものがあるのか、まだこれからでありますけれども、いずれにしても、たびたび申し上げておりますけれども、仙台空港というのは本当に復興の大きな推進に寄与する施設だと思いますし、それから特に150万人泊という大変高い目標を掲げておりますけれども、そういったものを実現するために必要な施設だと思いますので、具体的にはこれからではありますけれども、仙台空港のより活性化と、民営化された空港がしっかりとそういったことに頑張っていたらいいような何か支援ができればと思います。具体的にはこれからまた検討していきたいと思います。

(問) 最後にこちらを視察された所感をお願いします。

(答) そうですね。大変な被害に遭われたわけでありまして、住まいの再建、まちづくりをしっかりと進めていただいていると思います。それからイチゴの栽培、トマトの栽培を見せいただきましたけれども、いろいろなICT、ロボット、そういったものも活用して、新しい農業の復興モデルといったようなことをやっただけでいる。いわゆる住まいだけではなくて、産業、生業というのがこれから大事になるわけですが、そういったことを本当にしっかりとやっただけでいるなという印象を持ちました。まさに被災地、あるいは全国のモデルとなるような事業ではないかというふうに大きな期待を持っています。

(問) この山元町なんですけれども、今日、何か考えたことがありますらお聞かせください。それと、6年目になりましたもので、こんな小さな町をこれからどうするのがいいでしょうかというお考えはいかがでしょうか。

(答) 先ほど申し上げましたけれども、山元町は町長を中心に皆様本当に協力をなさって、厳しい中であって、着実に復興を進めていただいているということに関して、心から敬意を表したいというふうに思います。なかなか大変だと思いますけれども、これからも力を合わせていただいて、新しいまちづくりをしていただきたいと思います。そういった状況になりつつあるということは、私、今日視察をさせていただきまして感じましたし、引き続き復興庁としてできるかぎりの支援をしていきたいと思います。

それから、人口減少、あるいは高齢化ということは、全国的にもそうでありまして、山元町におきましてもそうだと思います。そうした中で、新しくやっていくということは大変難しいかもしれませんが、ぜひ町長を中心にみなさん力を合わせていただいて、本当に私、今日拝見した限りでは、大変皆さんご苦労されて、すばらしい新しいまちづくりをされていると思いますけれども、力を合わせてさらにまちづくりを進めていただければ、大

変ありがたいと思います。私どももまたできるかぎりの支援をさせていただきますたいと思います。

(問) この町の町民の皆さんに一言お願いします。

(答) 6年目に入ったわけであります。長い間、御苦勞いただいているかと思えますけれども、着実に皆さん方の力によって復興は成し遂げつつあるというふうに思います。これからも頑張ってください、しっかりとしたまちづくりをしていただきたいと思えますし、私どももできる限りの御支援をさせていただきますというのを改めてお約束申し上げたいと思います。

(以 上)